

プロジェクト名：オマーン国塩害対策支援基礎情報収集確認調査

(調査期間：2010年2月～1.4ヵ月、担当業務：塩水農業)

調査背景

オマーン国は年間降雨量が100mmに満たない乾燥地帯にあり、土地及び地下水の塩分濃度が高く、一般に農業に適した淡水及び用地を確保することが困難である。特に近年においては、急速な近代化及び人口増加に伴う工業及び生活用水需要の急増に対応すべく地下水の過剰な汲み上げが原因となり、土地及び地下水の塩分濃度はますます上昇している。そこで、オマーン国政府は塩害への対策を進めるためパイオ塩水研究所を設立した。同研究所は塩水を用いた農業の生産について研究を行い、当該国農業における塩害対策ガイドラインを策定する他、塩水でも栽培可能な農作物の開発を行い農業生産の向上につなげることを目標としている。研究所では、既に職員による研究がデーツ及び家畜飼料に関して実施されているが、職員の有する専門知識・技術は未だ十分とは言えず、研究計画の策定支援や最新技術についての指導、技術移転が強く望まれている。

調査概要

本調査はオマーン国における塩害状況の現状と課題の分析及び今後のJICAの支援の方向性を検討することを目的に実施された。

担当事項

- Ⅰ JICA課題別指針、国別援助計画、JICA国別事業実施計画等のレビュー。
- Ⅰ 当該分野における我が国協力リソースの確認。
- Ⅰ 農業及び農業省農業研究局、塩水研究所等の関係機関の実施体制、技術レベルの現状把握。
- Ⅰ 塩水研究所に対するJICAの支援対象分野及びその支援形態・内容案の検討。
- Ⅰ 主要ドナーによる支援動向に係る資料情報の収集。
- Ⅰ 想定される協力内容に関する技術的見地からの助言。
- Ⅰ 担当分野に係る現地調査結果の在オマーン日本大使館への報告。



パイオ塩水研究所が所属する農業試験場



耐塩性作物のスクリーニング



フィールドデイ（耐塩性牧草の導入）



フィールドデイ（施設栽培の導入）